



半田市乙川北側町2-54
TEL (0569)21-3646
FAX (0569)21-3646

県と市から助成金がもらえます

今年1月の発会式から、もう9か月が過ぎました。活動時間も着実に増加してきました。そして今回、県の「住民助け合い活動補助制度」（今年度より発足）の対象団体に指定されました。

これは4月に申請した結果に基づいて裁定されたものです。助成金の金額は、県と市より各84,000円、合計168,000円との内示を受けました。この金額は、4月申請時の、月300時間をもとに算定されたものだそうです。現在は下記の表のように、月600～700時間になっていますので、今後増額される可能性があります。

額はともあれ、在宅介護の必要性和わたしたち「りんりん」の活動に対して、公の目が向けられたということは、高齢化社会に向けての福祉の在り方に大きな前進であり、その意義は大きいと思います。

わたしたちもまた、福祉の現状にいつそう目を向けて、要介護者とその家族を援助する実践活動の推進に、努力していきたいと思います。

活動状況（時間・回数）及び協力・利用・賛助会員

	利用時間	派遣回数	協力会員	利用会員	賛助会員
4月	665	175	50	20	182
5月	470	147	49	21	182
6月	667	198	49	22	183
7月	744	206	49	26	192
8月	545	183	49	27	196
9月	616	178	58	27	199

半田で老後を迎えたら？

..... わたしはこうして賛助会員になりました



温暖な気候と人情味あふれる半田に住んで、経済的にもほどほど、健康にも恵まれ、「自分はしあわせだなー」と思う毎日の中で、ふと突然病魔に襲われて、寝たきりにになったり、連れ合いに先立たれてひとりになってしまったりしたときのことを考えると、一抹の不安を感じました。

そこで市役所を訪ね、こんなときにはどうなるのかを聞いてみました。

市役所では、主なこととして次のようなサービス事業を行っているとのことでした。

- ・ホームヘルパー（家庭奉仕員）が訪問して、排泄・入浴等の介護、調理・洗濯などの家事の援助をする。（老人家庭奉仕員派遣事業）
- ・寝たきり老人の方等をデイサービスセンターまでワゴン車で送迎し、入浴サービス、給食サービス等を行う。（デイサービス事業）
- ・入浴移動車で巡回して、入浴サービスを行う。（訪問入浴サービス事業）
- ・特殊ベッド・車イス・老人用電話等を貸出す。（日常生活用具貸出・給付事業）
- ・介護が大変な場合は、老人ホームで介護する。

その他にも、まだたくさんのサービスがあるそうです。高齢化対策室（TEL.21-3111内線288）に連絡すれば、いろいろ教えてくれますし、世話をしてくれるそうです。

いろいろなことが分かって、ちょっと安心しました。しかし、ヘルパーさんは人数も少なく、日数や時間の制限もあるそうです。もっと援助がほしいときにはどうしたらいいのかと悩んでいたなら、知人に、「りんりん」（半田市在宅介護・家事援助の会）の存在を聞き、その事務所を訪ねてみました。

「りんりん」の事務所では、こんな話をしてくれました。

「りんりん」は、援助してほしい人（利用会員）と、手助けする人（協力会員）会の運営を経済的に援助する人（賛助会員）からなる、助け合いの会です。

1時間700円の有償ですが、必要なとき、必要な援助をすることを目標にしています。どなたでも、気軽に相談してください。最近、援助の要請を受けて、活動に入ろうとしたところ、入院されてしまったり、中には不幸にしてなくなられてしまった方もあります。出来るだけ早めに相談してください。

家族だけで長期にわたって頑張り、疲れ果ててしまう場合も多いと聞きました。もう家族だけで介護する時代ではなくなってきているのだなと思いました。

わたしは、半田市を住みよい町にするために、少しでも協力したいと思い、「りんりん」の賛助会員になりました。（半田市在住、賛助会員・T.K）



「月見の会」を開催

9月22日に、雁宿ホールで、63名参加

春の「花見の会」に引き続いて、今年の秋は、9月22日（金）に雁宿ホールの娯楽室で、「月見の会」を開催しました。「花見の会」では、初めての企画なので、各利用会員ごとに数か所で実施しましたが、今回は協力・利用・賛助各会員が1か所に集まって交流を深めようというねらいで行われました。

1か所に集まることは、会として初めての企画なので、まず利用会員の方の出席について心配しましたが、社協から車イスごと乗れる車を借りることができ、一先ずほっとしました。11時からなので、係は10時から準備に入りましたが、利用会員の方は、10分後には2名、10時半にはほとんどの方がお見えになりました。みなさん朝から今日の「月見の会」を楽しみにされていたようです。

会場には、朝切ってきたハギの花やススキが飾られ、テーブルの上には、差し入れのみかん・ぶどう・シュークリーム、それに素敵なお弁当。そうそう生酒もありました。お好きな方は挨拶のときから、もうちびりちびり。

詩吟、カラオケ、「もみじ」などの唱歌の合唱、最後には利用会員の方の「炭坑節」で、みんなで輪になって、ホット ホット マタホット と、楽しく踊ってお開きになりました。

今日参加の会員は、利用会員とその家族が18名、協力会員と賛助会員が45名、帰りぎわに失語症の会員が、みんなと両手で強く握り合っていたことが、今日の「月見の会」の意義を表しているような気がしました。

「月見の会」を終えて

利用会員 後藤 真由美

楽しい一時をどうも有難うございました。和やかな雰囲気の中かで、皆さんが本当に楽しそうで、生き生きとしていました。母のように、体が不自由で、出席するとなるといろいろ心配したり、体の調子が悪いなどで、今日、この場に来られなかった方々のことを思うと、とても残念です。もう少し勇気を持てば、こんな楽しいことがあるのに。

しかし、あまり無理には勧めることもできないしと、複雑な気持ちです。お年寄りの方、体の不自由な方が外出されることは、わたしたち若く健康なものが想像する以上に大変なことだと思います。

今日出席された利用会員の皆さんも、たぶんお疲れのことと思います。しかし、きっととても楽しかったと言われるに違いありません。

「りんりん」の皆さんには、準備・後片付け等、いろいろとお世話をかけましたが、ぜひ今後も、このような催しを企画して下さるようお願いいたします。毎日の介護を家族だけであるならば、長続きも、そしてよい家族関係を保つことも、なかなか難しいと思っています。まして今日のような刺激の場、今後の励みとなる場を作ることは、到底できません。次回はもっと多くの利用会員の方々が参加されますように。

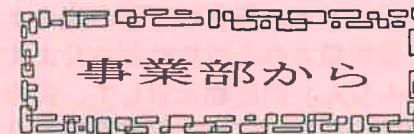
協力会員が9名ふえました

4月以降、会の体制を整備するために協力会員の受け入れを止めていましたが、その間にも何人もの方から入会の希望があり、9月に今年最初の新会員の受け入れを行いました。

9月9日（土）、11日（月）の2日間、雁宿公園の「ぴあかりやど」で、会の説明会を行い、その場で新しく9名の方が入会されました。30代の若い人が4名も入会されました。それは、老い＝介護という問題に前向きに考えている表れでしょう。

入会された方たちの多くは、何か社会のために役立つことをしたいというお気持ちでした。Aさんは、「T区の役員をしていたとき、高齢者の一人暮らしの多さにびっくりしました。」とのことでした。また、Bさんは、「両親と同居してみて学ぶことの多さに驚きました。高齢者の気持ちも以前よりは理解できるようになりました。今体験していることで皆さんのお役に立てるなら。」と動機を語ってくださいました。

新会員の方の今後の活動が期待され、楽しみです。



事業部から



「りんりん」の事務所では、衣類・日用雑貨などを中心にしたフリーマーケットを、常時開いています。時間は午前10時～午後1時までです。詳しいことは、TEL. 21-3646までお問い合わせください。相談次第では、「特得」になることがあるかも？ 関心のおありの方、ぜひ一度ご来所ください。お待ちしております。

「りんりん」の由来—2—

- ② 鈴々 「りんりん」と電話がなって、なかまからの新たな呼びかけ。「りんりん」と心の鈴をならして、わたしたちは出動する。心はいつも、りんりん気分でいたいものですね。
- ③ 隣々 「向こう三軒両隣り」。日本は古来、こうやって助け合ってきました。近くても遠くても、手を取り合って助け合う。思いはみな同じ。心が通えば、みんなが隣同士になります。



であい ふれあい たすけあい